



2017年3月期第3四半期決算(累計) プレゼンテーション資料

2017年1月
大阪ガス株式会社

I. 17.3期第3四半期実績と通期見通し

インターネットを通じて定期的に経営情報を発信しています : 下記のURLで、決算短信、アニュアルレポート、説明会資料等を閲覧・ダウンロードすることが可能です。<http://www.osakagas.co.jp/ir/>

「見通し」に関する注意事項 : このプレゼンテーションには、将来の業績に関する見通し、計画、戦略等が含まれており、これらは現在入手可能な情報から得られた当社グループの判断に基づいております。実際の業績は、さまざまな重要な要素により、これら業績の見通しとは大きく異なる結果となりうることをご承知おきください。実際の業績に影響を与える重要な要素には、日本経済の動向、急激な為替相場・原油価格の変動並びに天候の異変等があります。

ガス販売量に関する注記 : 全て、基準熱量を45MJ/m³として、表記しています。

連結ガス販売量に関する注記 : 名張近鉄ガス・豊岡エネルギー・新宮ガスは12月決算です。

四半期表記に関する注記 : 特に断りのない限り、「四半期」は「四半期累計期間」を表します。

17.3期第3四半期決算のポイント

対前年同期比較

■ 概況(連結)

連結売上高	LNG価格の下落に伴うガス販売単価の下落等により、 前年比14.5%(1,373億円)減収の8,074億円
連結経常利益	スライド差益の減少によるガス粗利益の減少等により、 前年比42.6%(440億円)減益の595億円 スライド差益は161億円(前年同期スライド差益558億円)
四半期純利益*	前年比46.6%(344億円)減益の394億円

* 親会社株主に帰属する四半期純利益

■ ガス販売量(個別)

家庭用	気水温が高く推移し、給湯・暖房需要が減少したこと等により、 前年比2.2%(27百万m³)減少の1,207百万m³
商・公・医療用	夏期の気温が高く推移し、冷房需要が増加したことや、 空調需要を中心に新規の需要開発が進んだこと等により、 前年比3.4%(34百万m³)増加の1,048百万m³
工業用	大規模な需要開発や、お客さま設備の稼働が増加したこと等により、 前年比11.6%(350百万m³)増加の3,359百万m³

17.3期第3四半期ガス販売実績

45MJ/m ³		A. 17.3期3Q	B. 16.3期3Q	前年差 A-B	前年比 (A-B)/B
個 別	お客さま数(千件)	7,286	7,228	+58	+0.8%
	新設工事件数(千件)	71	69	+2	+2.3%
	家庭用1戸当り販売量(m ³ /月)	22.5	23.1	-0.7	-3.0%
	家庭用	1,207	1,234	-27	-2.2%
	商・公・医療用	1,048	1,013	+34	+3.4%
	工業用	3,359	3,009	+350	+11.6%
	業務用計	4,407	4,022	+385	+9.6%
	他ガス事業者向け	350	335	+15	+4.5%
	(うち大口供給)	(3,805)	(3,442)	(+364)	(+10.6%)
	ガス販売量合計(百万m ³)	5,963	5,591	+373	+6.7%
連結ガス販売量		5,988	5,615	+372	+6.6%

17.3期第3四半期実績 |

()内は連単倍率

連結:億円	A. 17.3期3Q		B. 16.3期3Q		前年差 A-B	前年比 (A-B)/B	備考
売上高	(1.30)	8,074	(1.26)	9,447	-1,373	-14.5%	ガス販売単価の下落等
営業利益	(1.59)	599	(1.30)	1,064	-464	-43.7%	スライド差益の減少等
経常利益	(1.17)	595	(1.17)	1,036	-440	-42.6%	
四半期純利益 ^{※1}	(0.98)	394	(1.13)	739	-344	-46.6%	

		A. 17.3期3Q	B. 16.3期3Q	前年差 A-B
スライド差損益	億円	161	558	-396
原油価格	\$/bbl	44.8 ^{※2}	54.6	-9.8
為替レート	円/\$	106.5	121.7	-15.2
連結子会社数		147	148	-1

※1 親会社株主に帰属する四半期純利益

※2 17.3期3Q原油価格実績は、12月上中旬値までの平均。

17.3期第3四半期実績 II

連結:億円	A. 17.3期 3Q末	16.3期 3Q末	B. 期末	A-B	備考
総資産	17,319	18,277	18,297	-977	現金及び預金、固定資産の減少等
自己資本	8,841	9,235	9,066	-224	
有利子負債	5,506	5,919	5,671	-165	
在籍人員	21,014	21,168	20,844	+170	
自己資本比率	51.0%	50.5%	49.5%	+1.5%	
D/E比率	0.62	0.64	0.63	-0.00	

	A. 17.3期3Q	B. 16.3期3Q	A-B	備考
設備投資	582	783	-200	国内電源設備、海外事業投資の減少等
減価償却費	632	639	-6	
フリーキャッシュフロー	228	1,220	-992	当座資産の減少等

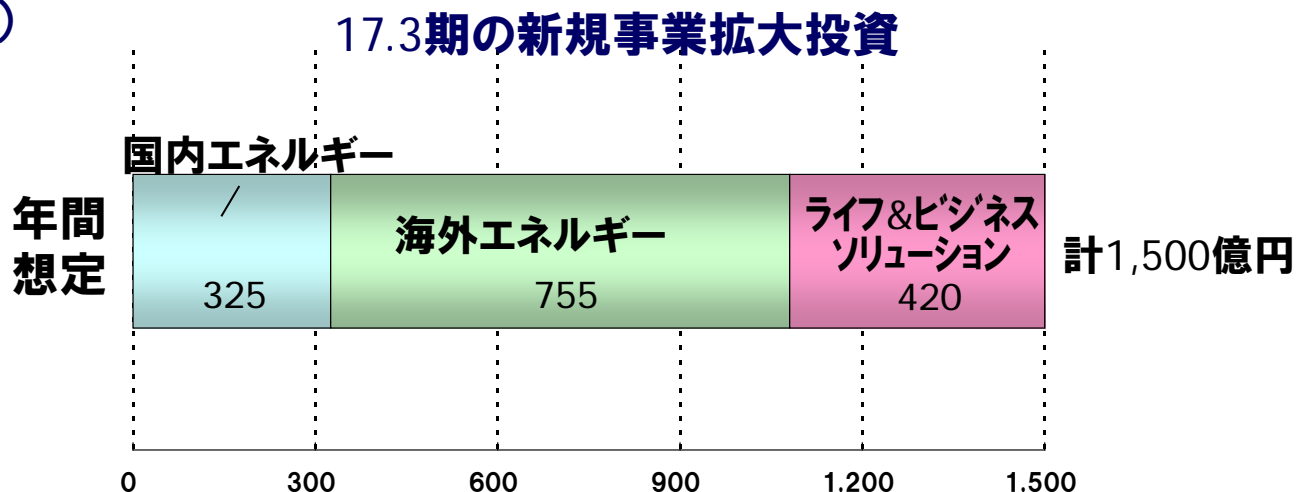
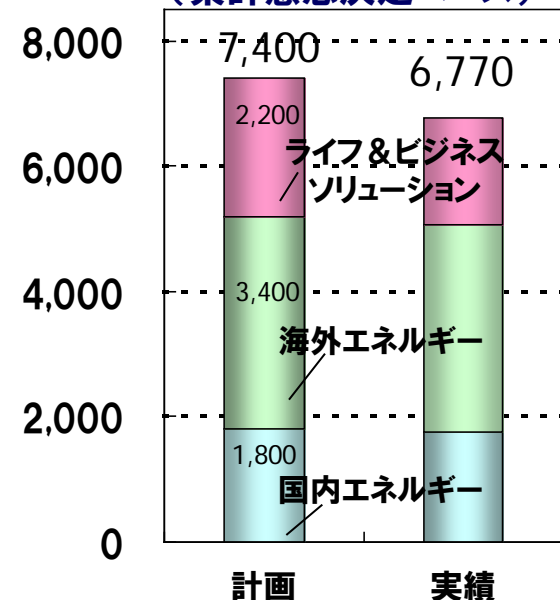
2016年10月にカナダのコルドバ事業の全株式を売却致しました。

フリーキャッシュフロー=営業活動によるキャッシュフロー(税引後営業利益+減価償却費等非現金支出)－通常の設備投資による支出

17.3期第3四半期新規事業拡大投資実績

- 海外上流・中下流案件、不動産への投資等を中心に、計489億円の投資を実行。
- 10.3期-17.3期の意思決定済金額は6,770億円(対計画91%)。

10.3期-17.3期(8か年)
投資計画の進捗
(累計意思決定ベース)



17.3期3Q実績：489億円

- ・ 国内エネルギー:73億円 (LPG事業、発電所など)
- ・ 海外エネルギー:298億円 (上流案件、発電所建設など)
- ・ ライフ&ビジネスソリューション :118億円 (都市開発事業など)

投資額には設備投資案件と投融資案件の両方を含むため、設備投資の実績値とは異なります。

17.3期通期見通し 修正のポイント

		今回見通し	前回見通し※	差	備考
4Qの 前提諸元	原油価格	55.0	55.0	±0	
	為替レート	115	105	+10	
個別ガス 販売量 (百万m ³) (45MJ/m ³)	家庭用	2,091	2,103	-11	
	業務用 その他	6,381	6,345	+37	お客さま設備の稼働 増減等を織り込み
収支 (億円)	連結売上高	11,595	11,705	-110	ガス販売単価下落等
	ガス粗利	3,250	3,200	+50	スライド差益の拡大等
	営雑・附帯利益	252	252	±0	
	労務費・諸経費・ 減価償却費	2,947	2,967	-20	
	関係会社利益	400	335	+65	OGUSA・フリーポートPJ関連
	連結営業利益	955	820	+135	
	連結営業外収支	-25	-40	+15	
連結経常利益	930	780	+150		

※ 10月26日公表の修正見通し

17.3期ガス販売見通し

45MJ/m ³		A. 17.3期 今回見通し	B. 16.3期 実績	前年差 A-B	前年比 (A-B)/B
個 別	お客さま数(千件)	7,298	7,252	+46	+0.6%
	新設工事件数(千件)	111	109	+2	+1.9%
	家庭用1戸当り販売量(m ³ /月)	29.2	29.3	-0.1	-4.1%
	家庭用	2,091	2,083	+8	+0.4%
	商・公・医療用	1,461	1,410	+52	+3.7%
	工業用	4,438	4,059	+379	+9.3%
	業務用計	5,900	5,469	+431	+7.9%
	他ガス事業者向け	482	469	+13	+2.7%
	(うち大口供給)	(5,047)	(4,647)	(+400)	(+8.6%)
	ガス販売量合計(百万m ³)	8,473	8,021	+452	+5.6%
連結ガス販売量	8,505	8,052	+453	+5.6%	

17.3期見通し I

()内は連単倍率

連結:億円	A. 17.3期 今回見通し	B. 16.3期 実績	前年差 A-B	前年比 (A-B)/B
売上高	(1.31) 11,595	(1.27) 13,220	-1,625	-12.3%
営業利益	(1.72) 955	(1.31) 1,466	-511	-34.9%
経常利益	(1.34) 930	(1.19) 1,349	-419	-31.1%
当期純利益 ※1	(1.19) 645	(1.01) 843	-198	-23.5%
SVA ※2	377	526	-148	-28.2%
スライド差損益 億円	121	817	-695	
原油価格 ※3 \$/bbl	47.3	48.7	-1.4	
為替レート ※3 円/\$	108.7	120.2	-11.4	

※1 親会社株主に帰属する当期純利益

※2 SVA(Shareholders' value added)=NOPAT- 投下資本×WACC

※3 2017年1月～3月の前提は、原油価格55\$/bbl、為替レート115円/\$

17.3期見通し II

連結:億円	A. 17.3末今回見通し	B. 16.3末実績	A-B
総資産	18,434	18,297	+136
自己資本	9,365	9,066	+298
有利子負債	5,568	5,671	-103
在籍人員	21,232	20,844	+388
自己資本比率	50.8%	49.5%	+1.3%
D/E比率	0.59	0.63	-0.03
	A. 17.3期今回見通し	B. 16.3期実績	A-B
設備投資	1,095	1,144	-48
減価償却費	866	867	-0
フリーキャッシュフロー	946	2,257	-1,311
ROA	3.5%	4.6%	-1.1%
ROE	7.0%	9.4%	-2.4%
EPS (円/株)	31.0	40.5	-9.5
BPS (円/株)	450.3	435.8	+14.5

フリーキャッシュフロー=営業活動によるキャッシュフロー(税引後営業利益+減価償却費等非現金支出)－通常の設備投資による支出

II. 参考資料

直近トピックス

■ ガス料金メニューの追加と「住ミカタ・プラス」の開始

開始日	2017年4月1日～
自由料金メニュー(追加)	<ul style="list-style-type: none"> ・GAS得プラン もっと割料金 (主に家庭用のお客さま向け) ・GAS得プラン あきない割料金 (主に業務用のお客さま向け)
住ミカタ・プラス	<p>月々定額料金(月額税込216円)で 「住まいトラブルの駆け付けサービス」と「暮らしのサポートサービス」を提供 ※GAS得プランをお使いの家庭用のお客さま向けのサービス</p>

■ 大阪ガスは「ガス・電気の料金メニュー」、「高品質な安心安全」、「暮らしのワンストップでのサポート」のトータルでのサービスを提供致します。

ライフスタイルに応じた
ガス・電気の料金メニューの拡充

高品質な安心安全の実現

お客さまの暮らしを
ワンストップでサポート

- ・365日対応の受付体制
(ガス機器の修理は24時間対応)
- ・専門スタッフによる即日訪問
- ・高い顧客満足度

- ・最新ガス機器の提案
- ・水まわり修理
- ・エアコン修理
- ・ハウスクリーニング
- ・リフォーム 等

NEW

もっと割料金

あきない割料金



「住ミカタ・プラス」

NEW

住まいのトラブルの駆け付けサービス

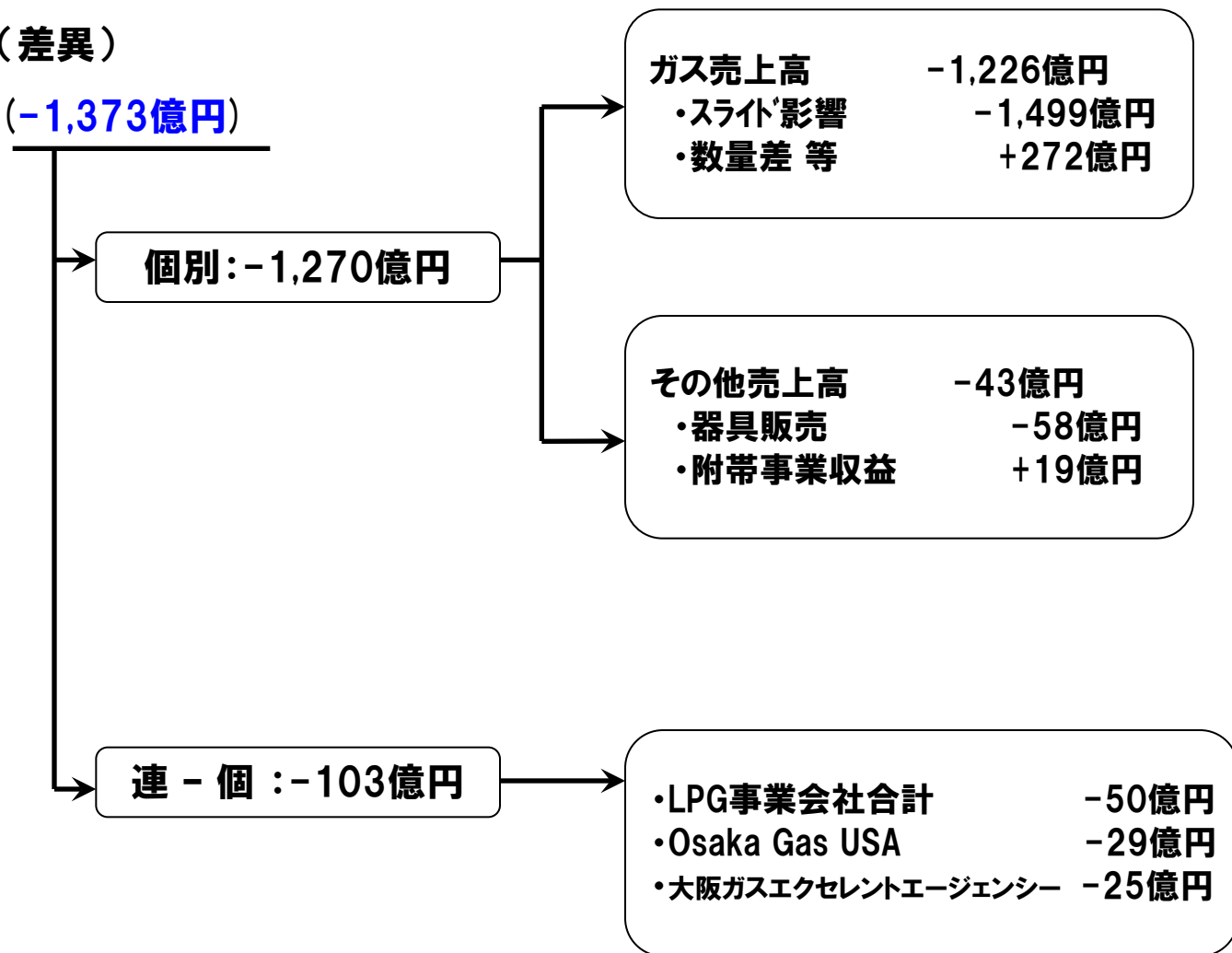
暮らしのサポートサービス



17.3期第3四半期の売上高差異(対前年同期)

16.3期3Q → 17.3期3Q (差異)

9,447億円 8,074億円 (-1,373億円)

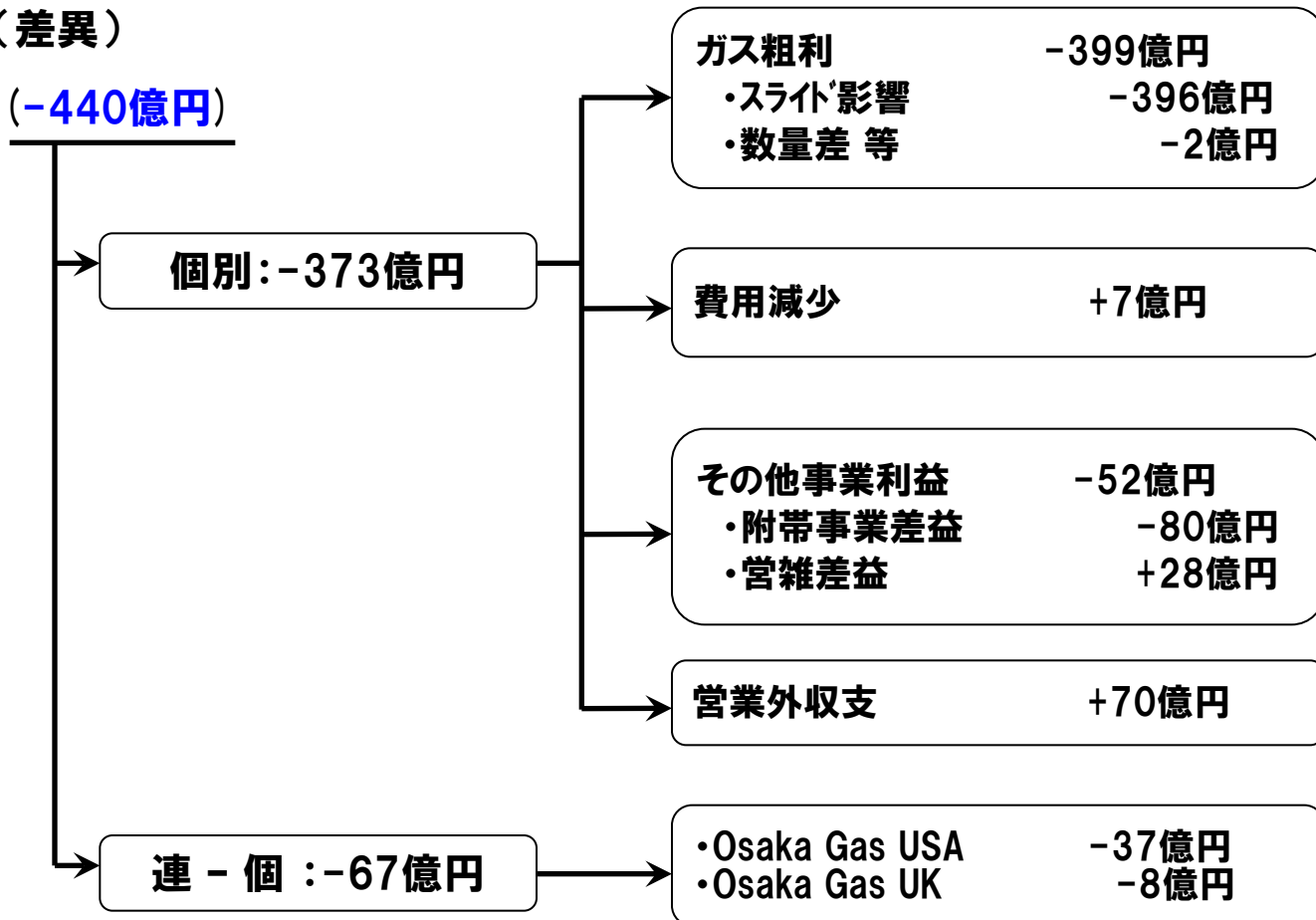


17.3期第3四半期の経常利益差異(対前年同期)

+-の符号は、利益影響を表す。

16.3期3Q → 17.3期3Q (差異)

1,036億円 595億円 (-440億円)



17.3期売上高見通しの前年差異

16.3期実績 → 17.3期今回見通し(差異)
 13,220億円 11,595億円 (-1,625億円)

個別: -1,532億円

ガス売上高 -1,526億円
 ・スライド'影響 -1,888億円
 ・数量差等 +361億円

その他売上高 -5億円
 ・営雑収益 -117億円
 ・附帯収益 +111億円
 (電力事業、LNG販売等)

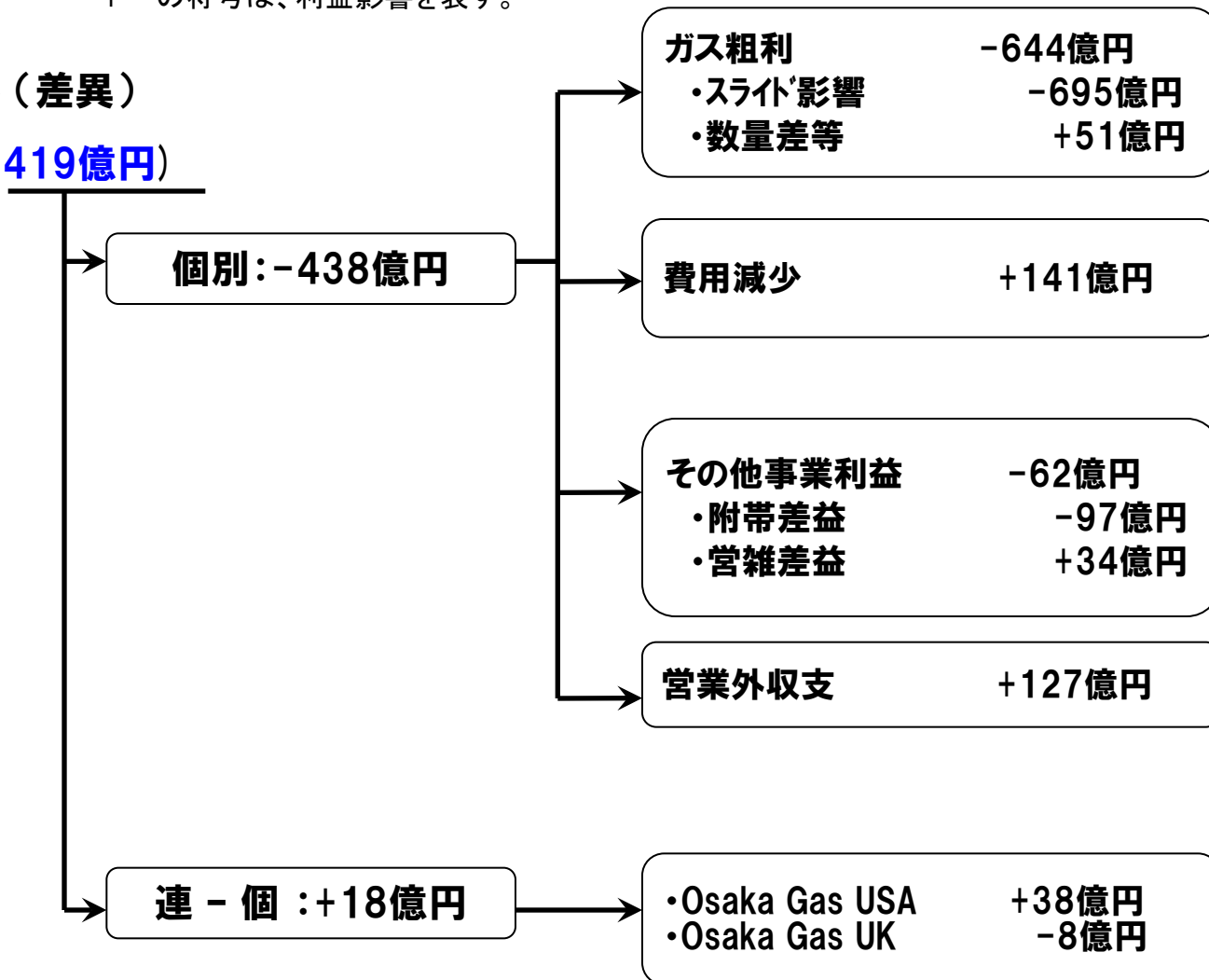
連 - 個: -92億円

・LPG事業会社合計 -49億円
 ・大阪ガスエクセレントエージェンシー -33億円

17.3期経常利益見通しの前年差異

+-の符号は、利益影響を表す。

16.3期 実績 → 17.3期 今回見通し(差異)
 1,349億円 930億円 (-419億円)



17.3期第3四半期セグメント別実績

単位:億円	売上高		セグメント利益(*)		備考
	17.3期 3Q	16.3期 3Q	17.3期 3Q	16.3期 3Q	
ガス	5,442	6,716	323	677	売上:ガス販売単価下落 利益:スライド差益の減少
LPG・電力・ その他エネルギー	1,443	1,565	148	233	売上:主にLPG事業で販売単価下落 利益:主に電力事業で減少
海外エネルギー	101	125	-10	13	売上・利益:米国エネルギー事業等で 減少(フリーポート影響等)
ライフ&ビジネス ソリューション	1,530	1,533	142	128	売上:ほぼ前年並み 利益:都市開発事業で増
消去又は全社	-444	-493	3	8	
連結	8,074	9,447	607	1,059	

(*)セグメント利益=営業利益+持分法投資損益

17.3期通期セグメント別見通し

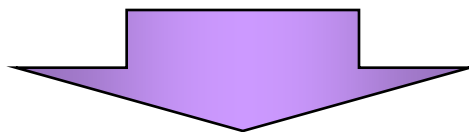
単位:億円	売上高		セグメント利益(*)		備考
	17.3期 今回 見通し	16.3期 実績	17.3期 今回 見通し	16.3期 実績	
ガス	7,869	9,485	490	957	売上:ガス販売単価下落 利益:スライド差益の減少
LPG・電力・ その他エネルギー	1,990	2,064	190	288	売上:主にLPG事業で販売単価下落 利益:電力事業・LNG販売で減少等
海外エネルギー	244	187	80	-2	売上・利益:米国エネルギー事業等で 増加(フリーポート影響等)
ライフ&ビジネス ソリューション	2,154	2,217	190	188	売上:関係会社売却影響 利益:ほぼ前年並み
消去又は全社	-662	-733	8	-9	
連結	11,595	13,220	957	1,421	

(*)セグメント利益＝営業利益＋持分法投資損益

家庭用ガス販売

17.3期3Q実績

	対前期	備考
調定件数	+0.8%	
気水温影響	-0.4%	平均気温20.8度(対前期+0.5度)
その他	-2.6%	ガス機器の高効率化、お客さまの省エネルギー推進等
合計	-2.2%	



17.3期通期今回見通し

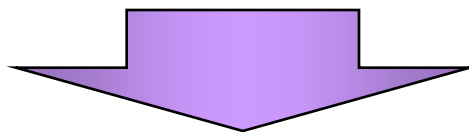
- 通期では、前期を8百万 m^3 上回り、見通し*を11百万 m^3 下回る
2,091百万 m^3 と想定

* 10月26日公表の修正見通し

商公医療用ガス販売

17.3期3Q実績

	対前期	備考
需要開発	+1.9%	空調需要を中心とした新規開拓
気温影響等	+3.5%	
個別要因	-1.0%	特殊要因によるお客さま先での設備稼働の減少
その他	-0.8%	ガス機器の高効率化、お客さまの省エネルギー推進等
合計	+3.4%	



17.3期通期今回見通し

- 通期では、前期を52百万m³、見通し*を16百万m³上回る
1,461百万m³と想定

* 10月26日公表の修正見通し

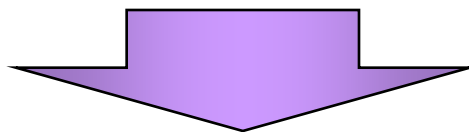
工業用ガス販売

17.3期3Q実績

	対前期	備考
需要開発	+11.1%	他燃料からのガス転換等
稼動増減等	+1.9%	お客さま設備の稼動増等
個別要因	-1.2%	特殊要因による減少
その他	-0.2%	
合計	+11.6%	

主な業種別実績 (45MJ, 百万m³)

	販売量	対前期比
機械	231	100.1%
金属	723	102.0%
ガラス	214	96.2%
化学	938	105.7%
食品	400	102.5%



17.3期通期今回見通し

- 通期では、前期を379百万m³上回り、見通し*を23百万m³上回る
4,438百万m³と想定

* 10月26日公表の修正見通し

17.3期第3四半期月次ガス販売の推移

前年同月比 (%)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	累計	
家庭用	94.8	99.9	100.7	94.2	95.2	92.1	89.9	101.5	104.7	97.8	
商・公・ 医療用	95.5	90.2	104.6	102.9	100.0	110.7	119.0	100.3	106.3	103.4	
工業用	101.5	121.2	112.9	106.0	114.5	116.8	115.6	110.3	107.1	111.6	
業 種 別	機械	93.8	104.1	95.4	91.4	99.2	101.4	103.6	107.4	107.3	100.1
	金属	98.2	102.0	99.7	99.9	98.2	101.8	103.7	104.4	110.1	102.0
	ガラス	95.4	104.0	98.1	92.8	99.1	95.7	95.7	96.5	97.3	96.2
	化学	94.5	109.2	107.4	96.4	100.5	102.2	113.3	126.1	107.5	105.7
	食品	100.0	106.9	102.8	98.2	104.6	104.5	103.7	100.5	101.9	102.5
卸	98.7	120.8	94.6	96.3	109.3	104.2	109.3	104.7	104.7	104.5	
計	98.3	110.3	108.0	102.9	107.9	111.2	111.0	106.3	106.1	106.7	

年度見通しに対するリスク要因

■ 気温・水温

- 気温・水温1度の変化に対して、家庭用ガス販売量は、春秋期約5%・夏期約6%・冬期約4%変動する可能性がある。

■ 原油価格

- LNG価格が原油価格にリンクすること等から、原油価格+1\$/bblの変化に対し、今年度第4四半期の経常利益は-0.3億円変動する可能性がある。

■ 為替レート

- LNG価格が米ドル・円の為替レートにリンクすること等から、為替レート+1円/\$の変化に対し、今年度第4四半期の経常利益は-7億円変動する可能性がある。

■ 原料費

- 原料費調整制度によって、中長期的には原料費の変動はガス料金に転嫁されるが、反映までのタイムラグや原料調達先の構成により、業績に影響を与える可能性がある。

■ 金利

- 金利1%の変動に対して、今年度の連結営業外費用が年間5億円変動する可能性がある。